

第63回 神宮式年遷宮

心ひとつに「エンヤ！」 学生が御樋代木奉曳式で奉仕



神宮職員が中心となる「官曳」に特別に参加させていただいた本学学生たち。陸揚げされたご神木は五丈殿前へ運ばれ、神職によるお祓いを受けた後、安置された
写真提供：皇學館大学神道研究所

令和15年の第63回神宮式年遷宮に向け、御杣山で伐採した御樋代木を宮域内に曳き奉る儀式「御樋代木奉曳式」が6月9日に執り行われた。五十鈴川を遡り内宮へと運び入れ、川曳には神道・国史・専攻科・大学院の男子学生58名が、津市で行われた御樋代木奉送迎行事には神職課程を履修する学生など約130名が参加。エンヤの掛け声と共に、心ひとつに曳いた。

御樋代木は御神体をお納めする御樋代を奉製するご料木である。今回運ばれたのは、3日に長野県上松町、5日に岐阜県中津川市で伐り出された樹齢約300年のヒノキ3本で、長さ6.6メートル、重さ約2トン。

午後1時頃、雨が降りしきる中、内宮宇治橋前にご神木を載せたトラックが到着すると、鈴木健一伊勢市長らが出迎え、集まった市民から拍手と万歳三唱が湧き起こった。その後、浦田橋付近の河川敷でご神木は一本ずつそりに載せられ、内宮へ向け川曳が出発。神宮式年造営庁職員や奉獻団代表、本学学生58名を含む約200人が「太一」(天照大御神の御料である意)の文字が入った黒法被と檜笠姿で曳いた。学生たちは腰まで水に浸かりながら、「エンヤ」の掛け声と共に力強く前進。宇治橋の下をくぐり抜け、約1.5キロの距離を2時間余りかけて漕上し、内宮風日祈宮橋に到着した。無事に大役を務

めた学生たちは重責を果たした喜びと安堵の表情を浮かべていた。

印象的だったのは、水深の浅い場所での重さが格段に増し、皆で力を込めてもびくともしなかったこと。当日はかなりの雨が降っており、水深が深い場所では体が半分以上浸かるなど動きにくさも併い、大変な作業となりました。しかし、20年に一度の遷宮という伝統の中で、特に重要な御樋代木奉送迎に参加できたことは、伝統継承の素晴らしさを肌で感じる貴重な機会となりました。学生という立場での特別な儀式に携われたことは、かけがえのない経験です。

神領民としての自覚
白岩 大聖(神道)

参加する前は国家的行事との認識でしたが、実際に経験すると、地元の方々の奉仕の精神によって連綿と受け継がれてきたのだと感じました。神宮が太古からの輝きを保ち続けている所以は、地域の方々の「神領民」としての誇り、自覚にもあると思います。曳く中で私自身、悠久なる日本人の系譜に連なる一人であり、神聖な仕事に携わる奉仕者としての喜びを噛みしめました。

神宮は時代や地域を超えた特別な存在
河野 美羽(神道専攻科)

御樋代木を載せたトラックが到着した瞬間、画面越しに見ていたご神木が目の前にあることに思わず声が出てしまっほど深く感銘を受けました。神職の方の車が先導して道を清める様子も印象深く、神事の継承を実感しました。

網は想像以上に重量感があり、最初は力が必要でしたが、動き始めると御樋代木と一体となって歩いていくようでした。「エンヤ」と声を揃えることで一体感が生まれ、緊張感の中に笑顔が増えていったことも強く記憶に残っています。

20年に一度の貴重な行事に自身が関わるとは思いもせずでした。しかし今回、よきこいにより、特に印象的だったのは、太鼓を打ち鳴らし踊る方々の演舞です。激しい雨の存在を忘れさせてしまっほどの迫力に魅了されました。獅子舞を久しぶりに見たことも記憶に残っています。本学ならではの貴重な経験ができ、素晴らしい思い出となりました。今後も機会をいただけるならこの特別な伝統に貢献したいです。

先人の献身に思いを馳せる
後藤 悠汰(神道)

三重縣護國神社にて御用材の警備にあたりました。私の担当時間は午後10時から午前0時、午前4時から6時までの計4時間です。特に夜明け前の警備は普段寝ている時間と重なっていたため、大変でした。しかし、昔の人は何日も連続して夜警を務めていたと考えられると、その献身に頭が下がると感じました。また、普段は立ち入りが許されていない御用材の近くまで特別に入り、神聖な材を間近で見られたことも忘れられない体験です。この貴重な経験を友人や将来の子どもたちに伝えることで、伝統継承の一助になればと思います。

倉田山 春秋

誇りと伝統を胸に、
58名が「川曳」の大役担う

伝統継承の素晴らしさを
肌で感じた特別な経験
野村 正徳(神道)

津市での奉送迎行事に
学生約130名が参加

迫力ある奉祝の演舞に魅了
栢 涼(教育)

神宮におかれては、山口祭、木本祭を皮切りに、第63回式年遷宮の諸祭、諸行事に取り掛かれた。6月9日に斎行された御樋代木奉曳式には本学の学生も奉仕させていただく機会を得た。白装束に黒の法被をまとい、檜笠を被って五十鈴川の川曳きに臨んだ。まさしく、伊勢で学ぶ学生の特別な経験といえる。▼鳥帽子岩のところが堰はよく滑るし、ひととき大きなお木を積んだ「そり」を引き上げるのも難しい。その先の宇治橋下も油断すると滑ってひっくり返り、全身ずぶぬれになる。お綱を曳いているというより、お綱につかまっっている感じだ。これらの難所を乗り越えてこそ、神聖なお木を大切に奉曳できたという達成感を味わうことができる。▼令和8年度、9年度には、旧神領民の地域を中心にお木曳行事がある。伊勢市内も人口減少により、奉曳団の結成に苦慮している地域もあると聞く。そこで、助っ人として、ぜひ、学生諸君に地域の奉曳にも参加してもらえればと願う。▼伊勢のまちは、この20年に一度というサイクルで更新されていく。いよいよ、始まったという、空気が伊勢のまちを包んでいる。

皇學館 学園報

第106号
令和7年7月



注目記事	2面
カルチャー&スポーツ	2面
強豪中央大に3回戦で惜敗 全日本学生柔道優勝大会	
「プラタモリ」撮影こぼれ話(小林郁助教)	
アカデミック	3面
加茂氏、中村氏、富永氏に名誉教授の称号	
アカデミック	4面
鈴鹿家旧蔵史資料を特別公開 神道史学会大会	
グローバル	5面
ガリレオガリレイ高等学校と 大阪・関西万博で協定式典 皇學館高等学校・中学校	
中高トピックス	6面
2年生 北海道修学旅行フォト レポート～笑顔と学びの3泊4日～ 皇學館高等学校	
1年生が宿泊研修で尾鷲・熊野の自然や産業を体感 皇學館中学校	
7面	
令和6年度収支報告決算	
アクティヴチューデント	8面
岡島奏音さん(高3)が三段跳で 日本選手権に初出場 ほか	

発行・編集 学校法人皇學館 企画部
TEL 0596-22-6496・8600

大学	大学院 文学部 教育学部 専攻科 現代日本社会学部
----	---------------------------

〒516-8555 三重県伊勢市神田久志本町1704
TEL 0596-22-0201(代) FAX 0596-27-1704

高等学校・中学校

三重県伊勢市桶部町138
[高校] 〒516-8577 TEL 0596-22-0205(代)
[中学] 〒516-8588 TEL 0596-23-1398(代)

倉田山 春秋

Culture & Sports
カルチャー&スポーツ

館友の伊藤之久氏が「育成功労賞」受賞

長きにわたり高校野球の発展と選手育成に尽力した指導者に贈られる「育成功労賞」に、近江兄弟社高校(近江八幡市)で野球部監督・部長を計36年間務めた伊藤之久氏(大19史)が選ばれた。同賞は日本高校野球連盟と朝日新聞社が各都道府県の高野連などからの推薦を受けて表彰するもので、伊藤氏の功績が広く認められた形だ。



伊藤氏は高校球児時代、恩師である林勝監督に憧れ、教師になることを決意。本学で教員免許を取得後、中学校教員を経て近江兄弟社高校に赴任し、野球部監督に就任した。同校野球部は部員が少なく、専用グラウンドもない状況だったが、「夏に勝てるチームにしてくれ」と託された。その頃、林氏は八幡商業高校を率い、夏の滋賀大会で4連覇を達成するなど名を馳せていた。伊藤氏は「打倒八商。林先生に追いつけ追い越せてやってきた」と当時の心境を語る。そして監督就任8年目の平成5年(1993)夏、滋賀大会の初戦で過去一度も勝利したことのなかった八幡商業高校を撃破。その勢いのまま優勝を果たし、チームを初の甲子園へと導いた。甲子園では初戦敗退となったものの、林氏からは「よう(滋賀大会を)勝ったな」と労いの言葉をかけられたという。現在伊藤氏は非常勤講師として勤務し、野球部を外部コーチの立場で指導している。今回の受賞を受け、「生徒、選手、私を支えてくれた皆さん、同僚のおかげだと大変嬉しく思っています。今後も野球の発展のため尽力していきます」と伊藤氏。8月には受賞を祝う会が予定されており、「監督時代の子に会えるのが楽しみ」と語った。

ご寄付のお願い

皇學館では、現在、課外活動の充実等に活用させていただき寄付金を募っております。各寄付の趣意をお汲み取りいただき、何卒本学の課外活動支援にご理解を賜りますようお願い申し上げます。

大学強化指定クラブ協賛金

法人 1口 10,000円 個人 1口 3,000円

大学では、駅伝競走部、柔道部を強化指定クラブとし、全国で活躍できる選手の育成に努めております。全国大会に出場する両クラブの競技力向上のため、皆様の協賛金へのご協力をお願いします。

皇學館クラブ応援メッセージ募金

法人 1口 2,000円 個人 1口 1,000円

学生・生徒のクラブを指定し、ご支援いただく募金です。指定先のクラブの活動強化・充実に役立てられます。クラブへの応援メッセージも受け付けております。皆様の熱いメッセージと募金をお願いします。



7月17日に行われたクラブ応援メッセージ募金授与式

お問合せ先 ● 記念事業・教学振興担当
TEL 0596-22-6313

強豪中央大に3回戦で惜敗

全日本学生柔道優勝大会

6月28・29日に日本武道館で開催された「全日本学生柔道優勝大会」に本学柔道部が出場。3回戦で中央大と対戦し0-2で敗退した。大会初日は2回戦から登場し、大正大学と対戦。先鋒の南選手が一本勝ちを収めると、次鋒、中堅、副将も勝利し、4-1で突破した。翌2日目は3回戦に臨み、シード校である中央大と対峙。中央大は昨年のこの大会で3位に入賞した強豪である。本学は昨年の全日本学生柔道団体優勝大会で中央大に1-2と惜敗しており、雪辱を期す一戦となった。

先鋒	南	大志(現日4)	一本勝
次鋒	井上	寛仁(教育2)	一本勝
五将	小川	司瑛(現日2)	優勢負(技有)
中堅	鬼塚	勇芯(教育3)	一本勝
三将	安田	和真(現日3)	引き分け
副将	中西	莞二(教育3)	一本勝
大将	若谷	恰(教育4)	引き分け
先鋒	若谷	恰(教育4)	引き分け
次鋒	井野川	幹太(現日2)	引き分け
五将	鬼塚	勇芯(教育3)	引き分け
中堅	南	大志(現日4)	引き分け
三将	中西	莞二(教育3)	一本負
副将	井上	寛仁(教育2)	引き分け
大将	上村	亮太(現日2)	優勢負(技有)

か、三将が一本負けを喫し、副将も引き分け。大将戦で一本勝ちすれば代表戦に望みを繋げられたが、有効を奪われ優勢負け。0-2で惜しくも敗れ涙を飲んだ。



主将の南選手は「3回戦敗退という結果に終わったが、10月の体重大団体にに向けて頑張っていきたい」と語った。佐藤武尊部長は「昨年ベスト4の中央大を何が何でも倒す思いで挑んだ。結果、紙一重で敗れたものの、成果も十分得られた」と今大会を総括。8月に開催される東海学生体重大別選手権で全階級を制覇し、個人戦で全国大会出場、10月に尼崎で開催される体重大別団体への出場にも意欲を示した。日本柔道界の定説を覆すべく、さらなる精進を誓う柔道部。今後の成長と活躍に、期待大だ。

総合3位で本戦出場逃す

全日本大学駅伝東海地区選考会

6月21日にマルヤス岡崎龍北スタジアムで開催された「第57回全日本大学駅伝対校選手権大会東海地区選考会」で本学駅伝競走部は総合3位となり、惜しくも本戦出場を逃した。今年度の東海地区の出場枠は2枠あり、1万メートルを全4組、各組に1チーム2名ずつ出場し、8名の合計タイムで争う。



2年連続の本戦出場をめざす本学は、1組目に予選会初出場の中島裕也選手(国文4)と塩見晃瑛選手(現日2)が出場。塩見選手が1着となるも、中島選手が遅れる形となり、5位からのスタートとなった。続く2組目で挽回しきれず、本戦出場は叶わなかった。

新間主将は「不甲斐ない結果だが、真摯に受け止め、これから生かしていく」と決意を新たにされた。寺田夏生監督は「学生たちは全力を尽くすべく大会に向け取り組んできた」と労い、「東海学連選抜での個人出場3枠の獲得と、10月13日開催の出雲駅伝で存在感を発揮できるような頑張りたい」と前向きな姿勢を見せた。

「プラタモリ」撮影こぼれ話

タモリさんの
お人柄あつてこそ

研究開発推進センター
佐川記念神道博物館
助教 小林 郁



このたび、多くのご縁に恵まれて、1年ぶりに復活した「プラタモリ」(令和7年4月5日〜5月10日放送・NHK総合)の総合案内役として出演させていただいた。新シリーズ初回を飾るタイトルは「伊勢神宮をめざす旅!」ということで、桑名から伊勢神宮に至る約90kmの伊勢路を、タモリさん、佐藤アナウンサーと一緒に一緒に歩いた。

タモリさんといえば、日本の芸能界を代表する、老若男女誰もが知っている超有名人である。子どものころからテレビが身近であった私は、タモリさんの番組が大好きだった。そんな当たり前のようにテレビの向こう側にいた方が、まさか自分の隣を歩き、共に伊勢の魅力について語り合う日が来ようなどと、一体誰が想像しただろうか。



江戸橋 常夜燈前

実際にお会いしたタモリさんの第一印象は、「テレビで見るとのまんま」である。カメラが回っていない時でさえ、視聴者がよく知るあのタモリさんなのだ。そして、口が進むにつれて感じたことは、出演者をはじめ、撮影スタッフや口ケ地の方々とも気軽にしゃべりを楽しまれる、とても話好きの方ということである。長年、「プラタモリ」が多くの視聴者層から親しまれてきたのは、なによりタモリさんの大らかなお人柄があつてこそなのだ。伊勢路の道中を一緒に歩く中で感じた次第である。末筆ながら、このような貴重な機会を賜り、タモリさん、佐藤アナウンサー、NHK番組スタッフの皆様へ心から感謝を申し上げます。

Academic アカデミック

加茂氏、中村氏、富永氏に名誉教授の称号

長きにわたり本学の教育・研究の発展に寄与し、多くの功績を上げられたとして、元文学部神道学教授 加茂正典氏、元教育学部教育学教授 中村哲夫氏、元現代日本社会学部現代日本社会学教授 富永健氏に、名誉教授の称号が授与された。



加茂正典氏



中村哲夫氏



富永健氏

加茂正典氏は昭和30年、大阪府生まれ。同志社大学大学院文学研究科博士後期課程文化史学専攻を単位取得満期退学後、平成6年に本学神道研究所講師に任用、総合研究を牽引された。平成25年に文学部神道学に異動。学部・専攻科・大学院を担当、学部主任等も務められた。在職は32年間。

中村哲夫氏は昭和30年、愛媛県に生まれた。東京教育大学体育学部を卒業後、筑波大学大学院体育研究科博士課程を中途退学。三重大学教育学部で25年間勤務した後、平成20年、本学に教授として任用。計17年間在職し、その間、学長補佐、教育学部長、FD/SD室長・部会長として

富永健氏は昭和34年、京都府生まれ。京都産業大学法学部、同大学院法学研究科博士後期課程を満期退学後、平成2年に本学に任用。35年にわたって本学に在職し、寮監、現代日本社会学部では、学部主任、学部長等を歴任した。

長年にわたり神道史、日本文化史特に大嘗祭を中心とする祭祀の研究に尽力。その集大成として『日本古代即位儀礼史の研究』を著し、平成13年、同志社大学より博士(文化史学)の学位を授与されている。天皇即位儀礼の研究を大いに前進させたことは氏の顕著な業績である。学外活動も多岐にわたり、神道史学会委員、神学本学教学委員等の要職を務めるなど、その功績は計り知れない。

専門は体育学であり、特にオリンピック運動史と近代日本のスポーツ史が主な研究対象である。これらの研究成果を学生教育・指導に還元し、学界では「体育学研究」編集委員、東北アジア体育・スポーツ史学会理事等として活躍した。また、三重県や伊勢市の教育に関わる各委員会の会長に就任するなど、地域社会の教育振興にも多大な貢献をしている。

専門は憲法学。単著に『日本憲法の基本理念』『憲法学の基本問題』があり、憲法問題の解明に力を注がれてきた。各学会で理事を務め、憲法学会では副理事長に選任されている。本学助教時代から伊勢市の情報公開制度に関わり、市の情報公開審査会の委員や会長を長年務め、令和6年には伊勢市民功労賞の表彰を受けた。三重県では8年間選挙管理委員会委員を務めるなど、教育、学術、地域社会の発展に大きな功績を上げている。

追想

令和7年4月7日、本学現代日本社会学部の笠原正嗣教授が逝去されました。享年60歳。笠原教授は本学の発展に多大な功績を残されました。故人のご冥福を心よりお祈りするとともに、その偉大な足跡を称え、深く追悼の意を表します。

笠原正嗣先生を悼む

現代日本社会学部 学部長 筒井琢磨

本学現代日本社会学部教授笠原正嗣先生が令和七年四月七日に亡くなられた。享年六十歳だった。年末から病氣治療中だった。三月にはお見舞いに行き談笑していた矢先の訃報であった。

十八年から新しい科目としてインターシップ実習を置くことにした。今こそインターシップを正課とする大学は多いが、当時としては思い切った産官学連携事業である。

は地域創生コースの責任者として学部の発展に努められた。第三代学部長富永健先生時代の二年間は学部主任として重責を果たされた。いよいよ第四代学部長として手腕を発揮することが決まってからご病氣が見つかり、辞退されてからの闘病だった。

笠原先生は平成九年四月に本学に就任され、平成十年四月に社会学部が開設されたからは名張学舎で勤務された。初代学部長高島昌二先生、二代学部長櫻井治男先生のご指導の下、学部を共に支えてきた仲間の一人として私は笠原先生に絶対の信頼を置いてきた。

平成二十二年四月に社会学部を改組した現代日本社会学部が開設され、学舎も伊勢に統合されることになった。初代学部長宮川泰夫先生のご指導を受け、新しい体制への移行はスムーズに進んだ。インターシップ実習は産業社会実習として生まれ変わり、この学部の看板授業の一つになった。笠原ゼミの人氣も高まった。

第二学部長新田均先生時代に活かしたい。のご遺志を本大学と本学部の運営に活かしたい。



笠原正嗣教授

Table with 2 columns: Year (e.g., 平成9年4月), Position (e.g., 文学部 講師)

人事異動

()内は旧職

法人

令和7年5月30日付

退任 常務理事 高向 正秀
就任 常務理事 圓藤 恭久

大学

令和7年6月30日付

退職 事務局長 森 正樹

令和7年7月1日付

採用 企画部調査役 信田 英二

出向 皇學館サービス株式会社事業部長 信田 英二

昇格 事務局長 松野 高士 (事務局次長)

配置換 研究開発推進センター事務室事務長 石橋 弘考 (企画部調査役・皇學館サービス株式会社事業部長(出向))
学生支援部教務担当主幹 玉田 功 (総務部総務担当主幹)
総務部総務担当主事 大津 政紀 (学生支援部教務担当主事)
総務部総務担当書記補 伊藤 遼 (学生支援部学生担当書記補)

新任教職員紹介

①出身・経歴 ②趣味・特技 ③座右の銘 ④メッセージ

企画部調査役 信田 英二



①三重県 ◆京都産業大学経済学部卒
②スポーツ ③自由 ④遊び心を取り入れた自由な考えで仕事ができればよいと思います。

書籍のご案内

令和6年度～令和7年度に出版された書籍のご紹介です。

学びはじめ心理学

芳賀康朗・栗野理恵子・高沢佳司・中山真 共著 A5判 定価891円(本体価格810円)



大学での学びをスムーズに始められるように、現代心理学の基本概念や専門用語を主要テーマ別に整理した初学者向けの一冊です。授業の予習と復習にも役立ちます。

素材から作るレシピ集

駒田聡子 著 A5判 定価374円(本体価格340円)



家庭にある調味料と素材(野菜・果物、肉、魚、卵、牛乳・乳製品、大豆製品、海藻等)を使い、幼児から高齢者まで作ることができるオリジナル料理とお菓子を紹介しています。

講演叢書 ～令和5年度 月例文化講座～

Table with 2 columns: Lecture Title (e.g., 選挙の意義と仕組み), Author (e.g., 富永 健著)

お問い合わせ先 皇學館大学出版部 TEL 0596-22-6320
http://shuppan.kogakkan-u.ac.jp/

Academic アカデミック

令和7年度 皇學館おかげキャンパスプロジェクト

5月21日に令和7年度「皇學館おかげキャンパスプロジェクト」の審査が行われ、審議の結果、2件が継続して採択された。

みえのお米とお茶ええやんプロジェクト

令和7年6月1日～令和8年1月31日
担当教員●駒田聡子(教育学科 教授)

三重ブランドである伊勢茶と三重県が開発したブランド米「結びの神」を広く県民に知ってもらい、茶葉から淹れるお茶の良さ・利点や、冷めてもおいしい「結びの神」の良さを理解していただき、消費拡大の一翼を担う。今年度は前年度協力が得られた団体と活動内容を精査し、より効果的な広報を検討する。

お茶の木プロジェクト

令和7年6月1日～令和8年1月31日
担当教員●藤井恭子(現代日本社会学科 教授)

皇學館内で学生・生徒と共にお茶の木を育てることを通して、学生・生徒への教育効果、郷土愛の醸成や地域活性化、茶農家の若い担い手育成、お茶の魅力発信、お茶の促進などの地域貢献、皇學館全体の活性化をめざす。高大共同プロジェクトであり、栽培した茶は将来的に商品化する予定。

令和6年度は1件の受託研究を実施

受託研究とは学外諸団体等から研究・調査等の委託を受け研究を行い、その成果を委託先に報告するものである。令和6年度は1町から1件の研究委託を受けた。地域のシンクタンクとしての機能を一層高め、産官学の連携強化、研究を通じ社会貢献を図っていく。

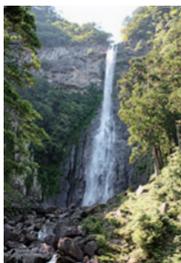
玉城町明るい未来づくりに関する調査研究業務

研究担当者●池山 敦(教育開発センター 准教授)
契約相手先●玉城町
受託期間●令和6年5月30日～令和7年3月14日

熊野で「文学散歩」を実施

文学部国文学科

文学部国文学科恒例のフィールドワーク「文学散歩」が6月1日に実施され、「那智の滝と熊野の神秘を訪ねて」をテーマに熊野に赴いた。



那智の滝

澄み切った青空の下、一行は花の窟神社や徐福公園などを巡り、熊野に伝わる古来の歌と信仰の世界に浸る一日となった。那智の滝は圧巻で、花山法皇の歌「石走る滝にまがいて那智の山 高嶺を見れば花の白雲」さながらの雄大さに、多くの学生が感銘を受けていた。

◆初めて巨大な滝を目の前にして、言葉が出ないほど圧倒されました。この体験を機に、これまであまり縁のなかった自然の世界に足を踏み入れたい意欲が芽生えました。行ってよかったと心から思いました。

山本珠緒(国文2)

◆那智の滝は圧巻でした。昼食も新鮮なお魚がおいしかったです。熊野古道センターでは実際に触って体験したりヒノキがもらえたりしてすごく面白かったです。とても充実した1日になりました。

羽川茜音(国文2)



花の窟神社



徐福公園



歴史的価値の高い資料の公開に、研究者や関係者から熱い視線が注がれた

見学会では光格天皇大嘗祭に際して丹波国から納められた抜穂や大嘗宮の神饌用具である枚手・窪手、貞享4年東山天皇大嘗祭の用物を記した聞き書きなど貴重な史料が特別公開された。参加者たちは当時の儀礼や文化について活発に意見を交換し、会場は熱気に包まれた。その後、加茂正典名誉教授による記念講演「式年造替と大嘗祭」が行われ、聴衆は熱心に耳を傾けていた。2日目には本学大学院および國學院大学大学院生を中心に若手研究者たちが日頃の研究成果を発表し、大変有意義な大会となった。

神道史学会大会初日の調査見学会では、久邇家と鈴鹿家の新収資料が初公開された。鈴鹿家は吉田神社の旧社家の一氏。大嘗会をはじめとする祭祀の実務に携わり、吉田家の家老的な役割を果たしていた。新収の鈴鹿家資料は学内の所蔵先により「大嘗祭関係文書」(研究開発推進センター神道研究所)、「鈴鹿家日記・文書」(附属図書館)に分類される。



寛政8年(1796)の新嘗祭における、小忌を卜定する日時を勘申したもの



「天明七年九月大嘗会抜穂」(主基)

鈴鹿家旧蔵史資料を特別公開 神道史学会大会

6月14日、15日の2日間にわたり、第71回(令和7年度)神道史学会大会が開催された。初日の調査見学会において、昨年新たに本学に収蔵された鈴鹿家の貴重な資料が公開された。また、記念講演や研究発表会等が行われ、多くの参加者を得て盛況のうちに終了した。

令和7年度科研費に4研究が採択

令和7年度 科研費新規採択課題一覧

Table with 3 columns: 課題番号, 研究種目, 研究期間, 研究代表者. It lists 4 approved research projects with their respective titles, periods, and researchers.

新規採択率が3割を切る国内最大規模の競争的資金制度・科学研究費助成事業(通称「科研費」)に本学から4つの研究が採択された。科研費は研究者の自由な発想に基づく「基礎研究から応用研究までの多様な学術研究」を支援する制度。人文社会科学から自然科学、学際・複合領域に至るまで、すべての学術分野におけるあらゆる研究が対象だ。審査は公平性と透明性が重視され、専門分野の近い複数の研究者によるピア・レビュー方式(査読制度)を採用。研究計画の学術的価値、独創性、実現可能性など多角的に評価される。また、研究機関に採用されたばかりの研究者や産前産後の休暇・育児休業等から復帰した研究者が研究活動を円滑に始められるようサポートする「研究活動スタート支援」に、昨年度、1件が採択された。

戦後八十年 館友戦歿者慰霊祭を斎行

6月25日、本学記念講堂において「戦後八十年館友戦歿者慰霊祭」が執り行われた。戦時中、神宮皇學館大学からは151名が学徒出陣のうち、23名が帰らぬ人となった。祭典では彼らを含む卒業生および教職員戦歿者計193柱の御霊を慰めた。



慰霊祭は戦後50年にあたる平成7年以降、10年ごとに斎行されている。祭典では神道学科 中山郁教授が齋主を務めた

慰霊祭には遺族代表の椿大神社宮司 山本行恭氏、皇學館館友会会長・熱田神宮宮司 千秋季頼氏の代理として同副会長で住吉大社権宮司の加藤司郎氏をはじめ、来賓の方々や学内関係者が参列。祭典に続いて靖国神社宮司の大塚海夫氏が「大東亜戦争終戦八十年を迎えて―と題し、講演を行った。靖国神社は、御霊への感謝を伝え、平和を祈る場所であると共に、風化していく戦争の「記憶の継承」を担っている。自然や祖先を敬う「自然道」である神道には、平和を尊ぶ信仰がDNAレベルで組み込まれているが、「平和」を維持するため時に命をかける必要がある。「平和」について学び・迷い・考え続けることが神職の使命の一つではないかと学生たちに熱く語りかけた。挨拶に立った齋藤平学長は、「英霊にまことを捧げ、平和を維持することの難しさを自分事として捉え、考え、行動すること」が期待されている」と力説した。



平和の尊さを訴える大塚氏



祭典全文はこちらのQRコード

第26回 高校生英語スピーチコンテスト 開催のご案内

スピーチ動画募集中

地域社会に教育研究の成果を還元し高校生の英語運用能力の向上に貢献したいと、文学部コミュニケーション学科では三重県教育委員会・三重県高等学校英語教育研究会の後援を得て高校生を対象に「高校生英語スピーチコンテスト」を開催しています。昨年度と同様にスピーチ動画の募集を行います。日頃の勉強の成果を試すこの機会に、ぜひご応募ください。

スピーチ内容
教科書等の英文の暗唱で、コンテストにふさわしいもの

スピーチ時間
約3分
(2分以下のもの、4分を超過するものは減点)

1～3位 (各1名)	賞状・図書カード
審査員特別賞 (若干名)	賞状・図書カード
参加賞	粗品

応募方法
スピーチ動画、応募用紙、スピーチ原稿の3点をGoogleドライブへアップロードし、本学コミュニケーション学科のメールアドレスに共有またはリンクを送付する。この方法で提出ができない場合は、スピーチ動画、応募用紙、スピーチ原稿をUSBメモリに保存し、配送記録の確認ができる方法で本学コミュニケーション学科へ送付する。

応募期間 8月18日(月)～9月19日(金)必着

応募書類送付先・問合せ先
皇學館大学 文学部
コミュニケーション学科研究室
〒516-8555 伊勢市神田久志本町1704
TEL・FAX 0596-22-6472
e-mail commu@kogakkan-u.ac.jp



Active Student

西川輝さん(現日2)が 母校で語る「自分らしさと 社会参加」

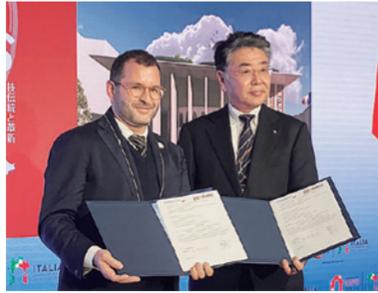
西川輝さんが母校である三重県立津東高等学校の探究授業「自分らしくプロジェクト」において、卒業生では初となる外部メンターを今年度より務めることになった。



同プロジェクトは、生徒が主体的・意欲的に探究活動に取り組み、自己のあり方や生活を考える中で、自分らしく未来を切り拓く力を育てていくことを目的としている。西川さんは「僕が在学していたころはなかった『探究』という新しい学びに、生徒たちが自分なりの問いに向き合いながら、学びを深めていく過程には、確かな意思と成長の軌跡が見える。そうした生徒の歩みに寄り添えることを心から光栄に感じている」と話す。続けて、「僕自身のこれまでの活動を振り返ると、正解のない問いに対して、他者と協働しながら『納得解』を導き出していく機会が多かった。多様な価値観を尊重し、複雑な課題に向き合いながら、最適な道を探っていく力は、変化の激しい時代を柔軟に生き抜くために、ますます必要とされるものだと感じています」と語った。

ガリレオガリレイ高等学校と大阪・関西万博で協定式典

皇學館高等学校・中学校



芝崎学校長(右)とルイジ・フラティ校長

皇學館高等学校では令和5年度よりスペイン語、フランス語などの多言語講座を開講している。令和6年度2学期からイタリア語講座が始まったのを機に角屋貴久学監がイタリアの政府機関を訪問。日本の学校との交流を希望しているガリレオガリレイ高等学校を紹介された。ガリレオガリレイ高等学校は生徒800名を擁する中高一貫校。調印式は6月3日に

高のある地域と雰囲気似ている」と語り、「ビデオレターで生徒が互いの文化を紹介するなど交流を深めてほしい。当校にも留学にきてほしい」と期待を込めた。芝崎学校長は「イタリアは豊かな歴史と文化を誇る国。生徒たちには連携をきっかけに異文化を学び、視野を広げてほしい」と展望を語った。

皇學館高等学校・中学校はガリレオガリレイ高等学校(イタリア・マルケ州)と相互交流を目的とした連携協定を締結。6月3日、大阪・関西万博のイタリア館で調印式が行われた。式典には両校校長のほか本校の校友会生徒とみえグローバル学生大使(交際交流に関して積極的に活動する高校生)として活動している本校の生徒、合わせて計18名が参加。連携協定によって相互に交流を深め、多様な価値観を育むことをめざす。

英語と落語の楽しさを満喫

皇學館中学校

6月18日、皇學館中学校で文化庁による学校巡回公演「笑って亭 上方落語と英語落語」が開催され、英語落語に取り組み桂かい枝さんとカナダ出身の桂福龍さんが来校した。午前のワークショップでは2人による軽快なトークが繰り広げられたほか、英語落語コンテストでは各学年の代表者が英語小唄を披露。3年生の黒田悠陽さん・宮原奏太さんペアが優勝した。

午後の本公演では初めに上方落語が演じられ、生徒たちは関西と関東で異なる唄の内容や語り口に興味津々の様子だった。続く英語落語では馴染みやすい表現とわかりやすいオチに引き込まれたようだ。生徒たちはこれまでに培ってきたリスニング能力を最大限に生

かき、各演目を心ゆくまで堪能していた。終盤には生徒と教員が1人ずつ上方落語を体験し、会場は大いに盛り上がった。一日を通して、日本の伝統文化に触れるだけでなく、表情や身振りも交えた「生きた英語」を学ぶ貴重な機会を得た生徒たち。日本文化を英語で発信できる人材の育成をめざす本校にとって、非常に有意義な時間となった。

◆公演を通して落語がいかに難しいか理解できたと同時に、興味も湧きました。眼前で観る落語は迫力が違うと感じました。落語家の方は、一人で二役三役も演じておられました。その領域に到達するまでには相当の稽古が必要なのだろうと思いました。

◆今までは「落語」に触れてこなかった自分にとって、とても新鮮な一日でした。落語は行うのも観るのも面白く、私の小唄を笑ってくれた時とても嬉しい気持ちになりました。今回の機会を通じて自分の世界が広がりました。

◆はじめは英語落語に対して堅いイメージがありました。しかし、いざ公演を聞いてみると一人で二人分の役を行い、ジェスチャー等も加わることで面白さが増幅されており、日本語の落語と変わらぬ面白さを見出すことができました。また機会があればぜひ観に行きたいです。



英語落語コンテストには事前に行われた予選で選出された各学年の精鋭たちが登壇し、それぞれの英語小唄を披露した

Regional Collaboration 地域連携



連携に向け握手を交わす齋藤学長(左)と中島社長

DX人材の養成に向け連携強化

本学×ITコンサルタント「フォーバル」

地域貢献をめざす本学は、地元企業で即戦力となるDX人材育成のため、ITコンサルタント会社「フォーバル」と業務委託契約を締結した。同社の社員らがDX関連授業を担当するほか、本学のカリキュラム設計や地元企業の受け入れ体制構築にも参画し、実践的なDX人材の養成を進める。

現代日本社会学部が令和5年2月に包括連携協定を結んだ「フォーバル」との取り組みが、全学的な業務提携へと発展した。今年度からは「イノベーション論」に加え、企業での就業体験やプレゼンテーション能力を養う演習授業でも同社の社員が講師を務める。令和9年度のカリキュラム改定では現代日本社会学部の経営革新コースに「DX人材養成講座(仮称)」を設置する計画だ。学生はデジタル技術やコンサルタントの基礎能力に加え、ESG経営についても学ぶ。将来的には学生がDXアドバイザーとして地元企業に就職し、デジタル技術を活用して課題を解決することで地域経済の活性化に貢献することをめざす。また、文部科学省のDXハイスクールに指定されている皇學館高等学校においても教員向けのDX講座を実施し、来年度からDX総合の授業を開始する。

齋藤平学長は6月16日の記者会見で、「DXの推進は企業や自治体の業務全体の改善に関わる顔が見えるコンサルティング業務を進めるには地域にDX人材が必要」と訴えた。同社の中島将典社長は、「若者たちが地元企業の伴走型支援者になることで地方経済圏を元気にしてほしい」と語った。

健闘むなしく初戦敗退

皇學館高等学校 野球部

甲子園出場をかけた第107回全国高校野球選手権三重大会が開幕し、7月5日、県内4球場で熱戦が繰り広げられた。本校野球部はダイムスタジアム伊勢で強豪の宇治山田商業高校と対戦した。



猛暑の中、強豪山商相手に戦う選手たち

この日は暑さ指数が基準を超えたことから、25分遅れの午後3時55分に試合開始。厳しい暑さの中、選手たちは最後まで粘り強く戦ったが、相手投手の見事なピッチングと鉄壁の守備の前に得点のチャンスを作り出すことができず、0対10で5回コールド負けを喫した。初戦突破は叶わなかったが、この悔しさをバネに、さらなる奮起を期待したい。

新種目で盛り上がる

クラスマッチ



白熱した戦いとなった(ビーチ)バレー(左)。新種目のアクション&クイズでポーズをとる生徒(右)

7月15日と16日の2日間、1学期クラスマッチが開催された。

体育館では体育種目である(ビーチ)バレーとポッチャが実施された。文化種目は瞬時の判断力とチームワークが試されるアクション&クイズ、そして創造性とバランス感覚が鍵となる新聞タワーが行われた。文化種目は校友会が考案し、今回初めて取り入れられた種目ということもあり、非常に盛り



上がった。これらの競技を通じてクラスの絆を深めるとともに、日頃の練習の成果を存分に発揮する機会となった。結果は左記の通り。

優勝	3年7組
2位	2年6組
3位	2年1組
	1年8組

2年生 北海道修学旅行フォトレポート ～笑顔と学びの3泊4日～

2年生が北海道への修学旅行を実施した。先発組は6月7日～10日、後発組は同月8日～11日。4日間の日程では北方領土問題について深く学んだほか、雄大な自然を満喫し、友情を深めた生徒たち。最終日には北海道神宮にて正式参拝を行った。忘れられない貴重な経験を写真で紹介します。

小樽運河



小樽での自由行動では小樽運河周辺を散策。きれいな街並みやガラス細工を楽しみました。お土産もたくさん買えました!

ノーザンホースパーク



北海道の自然の美しさが身に染みて分かった4日間。ガイドさんの丁寧な説明のおかげで、自分の世界が広がりました。

納沙布岬



納沙布岬から北方領土の島々がはつきりと見えました。目で見える距離なのに自由に行き来することができない現実を聞いて、北方領土の複雑な問題を痛感しました。

先発 6/7～6/10
後発 6/8～6/11

北海道神宮にて行われた正式参拝

北方四島交流センター



北方領土の講話で、実際に色丹島に住んでいた方から島での暮らしや開拓の歴史をお話いただきとても良い経験になりました。



納沙布岬では天候に恵まれ、歯舞群島の一部を見ることができて良かったです。今後も北方領土の問題に目を向けていきたいと思います。

仲間との絆、科学への知見を深める

全校生徒が名古屋市科学館へ遠足

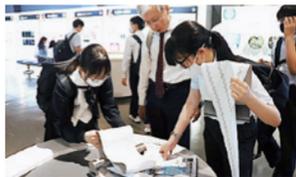
6月13日、名古屋市科学館への遠足を全学年で実施した。午前中はグループごとに「生命館」「理工館」「天文館」の名を冠した多種多様な施設やラボを訪れ、自然界の事象・現象について実践的に学べた。特に、実験装置や体験コーナーが用意されたブースでは、実際に自身の手で自然の理に触れ、既存の知識との関連を見出すとともに、新しい発見の数々に大いに満足している様子だった。

午後からは世界最大級のプラネタリウムドームが織り成す、限りなく本物に近い星空を鑑賞した。専門学芸員による生解説のもと、さまざまな天文現象や最新研究データが可視化され、生徒たちは心ゆくまで「天体観測」を楽しんでいた。

グループ行動を通して今まで以上に生徒間の絆が深まったことに加え、楽しみながら知見を深めることができ、充実した一日となった。



天文館の前にて



科学的な気付きを促す展示

- 印象に残った展示物は、「生命館」にあったプリントゲームです。地球に関するものが学べ、とても面白かったです。行動を共にした班員たちも夢中で没頭していました。今度は家族とまた行きたいと思います。(3年A組 桐生貫旦)
- 音や生命、地球のことなど色々学びました。特に2階の「不思議ひろば」が面白く、すごく興味を持ちました。プラネタリウムも大迫力

- でした。本当に夜の世界にいるような感覚で、星空もとても綺麗でワクワクしました。(2年A組 中西奏心)
- プラネタリウムではブラックホールの構造が可視化され、解説も分かりやすかったです。生命のエリアは科学の不思議について知ることができ、身体を使ってゲームができるブースもあり、とても楽しかったです。(1年A組 酒井峻平)

尾鷲・熊野の自然や産業を体感

1年生・宿泊研修

5月29日、30日と1泊2日の日程で1年生が尾鷲・熊野への宿泊研修を実施した。

三重県の地場産業研究を目的とした本研修。世界遺産である花の窟神社での正式参拝から始まり、農業学習・トマト収穫体験や林業学習・丸太切り体験、水産業学習・養殖ブリ加工工場見学を行った。仲間と協力し、声を掛け合いながら尾鷲・熊野の自然や産業について体感する有意義な研修となった。



熊野市トマト農園で収穫体験



熊野古道センターでさんま寿司作り

生徒感想(抜粋)

- 農業体験でトマトの収穫方法を教えていただきました。試食したトマトは甘くておいしかったです。林業体験での丸太切りはとても力を使うことが分かり、貴重な体験でした。熊野古道センターの展示は興味を引くものばかりで、熊野市の文化や歴史について知ることができました。この2日間でさまざまなことを体験し、今まで知らなかったことをたくさん学習することができました。この経験を今後に生かしたいです。
- 私は集団行動を意識して、みんなで声を掛け合って行動するよう気をつけました。ホテルでは部屋長の仕事もやり切ることができました。今まであまり関わっていなかった子とも仲良くなり、楽しい思い出を作ることができて、互いのことをよく知ることができました。

令和6年度 収支決算報告

学校法人皇學館の令和6年度決算は、令和7年5月23日開催の理事会で承認されましたので、ここにその内容を報告致します。

なお、公式ホームページ(https://www.kogakkan-u.ac.jp)の大学概要～情報の公表「経営及び財務等に関する情報＝事業報告＝令和6年度」にて、法人設置の教育研究機関・学校法人の組織機構・入学生数・在籍者数・卒業生数・進路状況及び法人の事業報告書を、「経営及び財務等に関する情報＝財務情報」には財産目録、財務の概要等を公表しておりますので併せてご覧ください。令和6年度収支決算書は、以下のとおりです。



詳しくはこちら▶

1 資金収支計算書

この計算書は、企業会計でいえばキャッシュフロー計算書に相当するもので、当該会計年度の諸活動に対応する全ての収入及び支出の内容並びに、当該会計年度における支払資金(現金預金)の収入及び支出のてん末を明らかにしています。

令和6年度における資金収支計算書の収入の部合計及び支出の部合計は7億9千3百万円で、翌年度に繰り越し現金・預金(翌年度繰越支払資金)は、21億7百万円となりました。

資金収支計算書(法人全体)

令和6年4月1日～令和7年3月31日 単位：千円

Table with 4 columns: 科目, 予算, 決算, 差異. Rows include 収入の部 (Total 5,092,458) and 支出の部 (Total 5,153,407).

学生生徒数3,607名分の学納金等の納付金となります。【内訳】(R6.5.1現在) 大学(院専舎) 2,605名 高中 1,002名 ※前年度の学生生徒数は、3,777名でした。

教学振興会(紳士・卒業生・企業など)、協賛員、熱田神宮、皇學館サービス株式会社、専の会、中学校・高等学校後援会他からいただいた寄付金となります。専の会からは、学生のクラブ支援への車両購入に対する寄付金をいただきました。

国や地方公共団体からの補助金となります。大学部門では、例年の経常費補助金に加え、国の「修学支援新制度」実施による支援金は1億8千7百万円となりました。また、「研究設備整備費補助金」により古書「鈴鹿家文書」を購入しました。高等学校部門では、私立高等学校施設高機能化補助金により第3体育館空調設備工事を実施し、ICT教育設備整備費推進事業費補助金により情報教室パソコン等を更新しました。高等学校・中学校部門においては前年度に引き続き「私学物価高騰対策支援補助金」を計上しています。

令和6年度に実施した入試の令和7年度入学生予定者から徴収した入学金を含む納付金で、入学手続者は大学・高等学校・中学校を合わせて1,446名となります。

本務教員159名、本務職員111名、兼務職員17名他の人件費支出となります。

教育研究諸活動や管理運営に必要な消耗品費、奨学金、光熱水費、旅費交通費、施設修繕費(大学宿舎の改修工事・大学消防検ホース取替・弓道場安全補修工事・高等学校トイレ解体撤去・産廃処理・体育館消火栓配管管替工事等)、保守管理費、報酬委託料他の支出となります。

大学部門では、記念館軒柱設置と大学2号館学生相談室他改修、高等学校部門では、1号・2号校舎のトイレ改修工事、第3体育館他空調設備の更新と管理棟前のアスファルト舗装工事等の支出となります。

大学部門では、情報教室421.522.523の機器更新、UNIFASサーバの更新、図書館集塵器庫除菌器の設置等の支出、高等学校部門では、PC教室生徒用パソコン他機器更新、電子黒板付超短焦プロジェクターの更新、1号教室他タブレット端末取納ロッカーの整備等の支出となります。

Table with 4 columns: 科目, 予算, 決算, 差異. Rows include 支出の部 (Total 5,153,407) and 当年度繰越支払資金 (2,084,585).

Table with 4 columns: 科目, 予算, 決算, 差異. Rows include 当年度繰越支払資金 (2,084,585) and 当年度繰越収支差額 (△60,949).

【注1】記載金額は千円未満を切り捨てて表示しています。【注2】貸借対照表の注記は省略しています。

2 事業活動収支計算書

この計算書は、企業会計でいえば損益計算書に相当するもので、学園の経営状況を表し、当該会計年度の活動に対応する事業活動収入及び事業活動支出の内容及び基本金組入後の均衡の状態を明らかにするものです。

事業活動収支を「教育活動収支」「教育活動外収支」「特別収支」に区分し、収支を経常的なものと臨時的なものに分け、更に経常的な収支を教育活動と教育活動外に分けて把握することができます。令和6年度の「基本金組入前当年度収支差額」は73百万円の黒字となりました。

事業活動収支計算書(法人全体)

令和6年4月1日～令和7年3月31日 単位：千円

Table with 4 columns: 科目, 予算, 決算, 差異. Rows include 事業活動収入 (Total 4,825,004) and 事業活動支出 (Total 4,854,319).

教育研究活動に関する寄付金(教学振興会、協賛員、熱田神宮、皇學館サービス、専の会、高等学校後援会他)となります。

教育活動に関する経常費等補助金となります。

減価償却額の教育研究経費及び管理経費の合計は、5億3千1百万円となりました。

教育活動収支差額は、7百万円の黒字となりました。

教育活動収支差額及び教育活動外収支差額を合わせた経常収支差額は2千7百万円の黒字となりました。

施設設備に関する寄付金(専の会、高等学校後援会からの寄付金)と施設設備に対する補助金、機器備品や図書等の現物寄付となります。

建物、構築物、機器備品、図書の資産処分となります。

教育活動収支差額及び教育活動外収支差額を合わせた基本金組入前当年度収支差額は7千3百万円の黒字となりました。

基本金組入前当年度収支差額から基本金組入額合計を差し引いた当年度収支差額はマイナス2億8千2百万円となりました。

Table with 4 columns: 科目, 予算, 決算, 差異. Rows include 経常収支差額 (△11,249) and 基本金組入前当年度収支差額 (5,874).

Table with 4 columns: 科目, 予算, 決算, 差異. Rows include 事業活動収入計 (4,909,388) and 事業活動支出計 (4,903,513).

3 貸借対照表

この計算書は、当該会計年度末における資産及び負債、純資産の内容及び在り高を明示し、学園の財政状態を明らかにすることを目的としています。

固定資産については、「有形固定資産」「特定資産」「その他の固定資産」の3つの中科目を設けて表記しています。

令和6年度においては、資産は増加し負債は減少しました。結果、純資産は73百万円の増加となりました。

貸借対照表

令和7年3月31日 単位：千円

Table with 4 columns: 科目, 本年度末, 前年度末, 増減. Rows include 資産の部 (Total 20,510,813) and 負債の部 (Total 18,710,285).

皇學館 DAY 2025

皇學館大学・高等学校・中学校 合同開催

9.15月祝

台風等の影響により、中止する可能性があります。詳細等は、ホームページにてご確認ください。



公式サイト

会場 三重県文化会館 大ホール 津市一身田上津部田1234

皇學館高等学校吹奏楽部 第18回定期演奏会

14:00[開場]/15:00[開演]～17:45(終演予定)

入場料 1,000円【全席指定】 ※未就学児の方で座席を使用される場合も入場券が必要です。

- チケット販売所: 村井楽器 松阪店 TEL 0598-21-1030, 伊勢店 TEL 0596-22-1238, 三重県総合文化センター チケットカウンター TEL 059-233-1122, 第一楽器 四日市店 MYRTE TEL 059-353-7361, 皇學館高等学校 学校事務室

お問い合わせ 皇學館高等学校 TEL 0596-22-0205 https://www.kogakkan-h.jp チケットの販売は8月中旬に高校HPにてお知らせします。

会場 三重県総合博物館 MieMu 津市一身田上津部田3060 MieMu基本展示無料

学び体験プログラム&進学相談会

10:00～15:30

学校法人皇學館は三重県総合博物館(MieMu)と協力し、大学・高校・中学校での教育の一端を、楽しみながら学ぶコーポレーション・デーを開催します。

学び体験プログラムの参加には、整理券が必要です。当日9:30より2Fエントランスホールにて配布します。【先着順】

2階 交流活動室: 整理券必要, なりきり神職体験 (10:00~15:00), インクルーシブスポーツを体験しよう (10:00~15:00)

2階 実習室: 整理券必要, 昆虫の中にあるハチって知ってる? (10:15~11:15), ベットボトルジャングルを作ろう (12:00~13:00), 昆虫の中にあるハチって知ってる? (14:00~15:00)

3階 レクチャールーム: 整理券必要, 親子教室「提灯を作ろう」 (10:00~12:00), 色紙を使ってスーパー紙飛行機を作ろう (12:30~13:30), 親子教室「提灯を作ろう」 (14:00~15:30)

3階: 整理券必要, バルーン・折紙体験 (11:00~15:30), 進学相談会 (10:00~15:00), クイズラリー (基本展示内無料) (10:00~15:30)



高い志とチャレンジ精神でもって学内のみならず、さまざまなフィールドで活躍している皇學館生たち。本コーナーでは彼らの熱い思いとともに、その活動ぶりをご紹介します。

挑戦の夏が始まる! 全国大会出場者紹介

厳しい練習や努力を重ね、全国大会への切符を掴んだ皇學館高等学校の選手たち。本企画では大会に出場する選手たちの目標や意気込みを紹介します。全国という大舞台でどのような輝きを見せてくれるのか、彼らの熱い夏を一緒に応援しましょう!

令和7年度 全国高等学校総合体育大会 「開け未来の扉 中国総体 2025」 開催期間 7/23水～8/20水

バドミントン部 男女 競技 8/5水～8/9土・山口県



【男子】前列左から、水流暖翔(1年)、清水貴輝(3年)、松本准(3年)、田中優羽(3年) 後列左から、秋山翔(1年)、森積喜(2年)、山下晃輝(2年)、佐藤敬仁(2年)

目標はベスト8入り 松本 准(団体・個人)

これまで積み重ねてきた練習の成果をすべて出し切り、「ベスト8入り」を目標に、一戦一戦を全力で戦います。ここまで支えてくださった監督・コーチ、家族や仲間たちに心から感謝しています。応援して下さる方々への感謝の気持ちを胸に、最後まで諦めずに自分たちらしいプレーを貫きたいです。3年生はこの全国の舞台が最後なので悔いの残らないよう一本一本力を出し切って、勝ち切れるよう頑張ります。



【女子】前列左から、米澤萌衣(2年)、谷田楓華(1年)、奥村紗羽(2年)、成岡杷音(2年) 後列左から、稲吉礼有(3年)、世古口来海(3年)、大石乃愛(2年)、藤井菜(2年)

全力を出し切り、楽しむ 稲吉 礼有(団体・個人)

団体戦は8年連続12回目の出場となります。昨年度よりも良い結果を出せるように、自分たちの力を出し切って最後まで諦めずに頑張ります。私たちがここまで成長することができたのは、顧問の先生やコーチ、保護者の方々の支えがあってこそだと思います。周りの方々への感謝の気持ちを、最高のパフォーマンスと勝利に変えて恩返ししたいです。悔いが残らないように全力を出し切り、思いきり楽しみます。1・2年生は次の一歩へ繋げられるように全力プレーで頑張ります。

陸上部 競技 7/25金～29火・広島県



左から、西村選手、岡島選手、上田選手、向原選手

最高の結果で恩返し 岡島 奏音

去年はインターハイに出場することすらできず、とても悔しい思いをし、絶対に日本一になりたいという強い気持ちで毎日努力を重ねました。今年のインターハイでは、優勝をし、日本一になること、そして日本高校新記録を出すことを目標にしています。必ず目標を達成させ、これまで支えてくださった全ての方々への感謝の気持ちを忘れず、最高の結果で恩返しができるよう精いっぱい頑張ります。

入賞をめざす 向原 悠斗

東海総体では2日目で崩れてしまいました。修正して、総体では入賞をめざして頑張ります。

皇學館を背負う 上田 凜太郎

皇學館を背負って決勝進出できるように精いっぱい頑張ります。

自己ベストを出して決勝へ 西村 空菜

初めてのインターハイ出場で不安なところもありますが、自己ベストを出して決勝に進出できるように一生懸命頑張ります。

東海総体結果

女子三段跳	優勝 (12m81)	岡島 奏音 (3年)
男子八種競技	優勝 (5628点)	向原 悠斗 (2年)
男子110mハードル	5位 (14秒59)	上田凜太郎 (3年)
男子400mハードル	5位 (52秒72)	上田凜太郎 (3年)
男子棒高跳び	5位 (4m60)	西村 空菜 (3年)

岡島選手が三段跳で日本選手権に初出場



6月に開催された第71回東海高等学校陸上競技対校選手権大会女子三段跳で皇學館高等学校3年の岡島奏音選手が12m81を記録し優勝。東海高校記録、三重県高校記録、大会新記録を樹立する快挙を成し遂げた。この結果を受け、7月4日に国立競技場で行われた第109回日本陸上競技選手権に初出場。記録は12m10で、17位という結果であった。

新記録を引っ提げて臨んだ日本選手権を振り返り、「プレッシャーはなく、日本を代表する選手たちとの競技を楽しもうと思っ

た」と語る岡島選手。自己ベスト更新や日本高校記録には届かず、「自信があっただけに、納得いかず悔しい」としながらも、「憧れの舞台で競技ができて嬉しく、楽しかった」と話す。

全国トップ選手の集中力と結果を出す姿に大きな刺激を受け、「自分もそんな選手になりたい」と決意を新たに岡島選手。三段跳の奥深さと難しさを再認識し、今後は「怪我のケア、練習の質の向上、競技を楽しむ気持ち」を大切に、さらなるレベルアップをめざす。競技生活を通して「陸上は孤

独なスポーツではない。競技するのはひとりだが、そのひとりを支える応援の大切さ、ありがたさを学んだ」と言い、この経験を生かすべく「チームを支え、応援されるキャプテンでありたい」と語った。今後の目標は広島インターハイでの優勝と日本一、そして「誰も超えることのできない日本高校記録」の達成だ。今後のさらなる飛躍に期待が高まる。



全日本高校ボウリング選手権大会

開催期間 7/31水～8/2土・愛知県

一投一投大切に戦い抜く

澤田 枇奈(1年)

私はボウリングで7月末から愛知県で行われる全日本高校ボウリング選手権大会に出場します。中学のときは悔しい思いばかりしてきました。高校では優勝をめざして努力してきました。まずは、今大会を開催、運営をして下さる方々、今でもこれからも応援して下さる方々に感謝を忘れず、一投一投大切に戦い抜きたいです。そして、私が悔しかったときに支えてくれた家族や友人をこれからも大切に、悔いのない競技をしていきます。優勝するために頑張りますので、応援よろしくお願いします。



第49回 全国高等学校総合文化祭 かがわ総文祭2025 「讃岐に咲くは才の花たち」

開催期間 7/26土～31水・香川県

写真部

写真部門 7/27日～7/31水・高松市

作品作りのヒントを学びたい

後藤 咲良(3年)

私は香川県で開催される全国高等学校総合文化祭の写真部門に参加します。この大会では生徒同士の交流会、撮影会、入賞作品の講評会があります。各県から選出された、素晴らしい作品を鑑賞することで、自身の技術向上につなげていきたいです。そして見る人の心を惹きつけるような作品作りのヒントを学んでこうと思います。これまで熱心に指導して下さった顧問の先生に感謝し、先輩方につないできた全国大会出場のバトンを次の代に渡せるように、自分を信じて頑張っていきます。



囲碁部

囲碁部門 7/26土～7/27日・まんのう町

全力で試合に臨む

伊東 亜里紗(2年)

この度、7月に開催される全国高等学校総合文化祭・囲碁部門に出場することとなりました。私は県代表として、団体戦の主将を務めさせていただきます。全国から集まる各県の強豪校と対局できる貴重な機会をいただいたことに感謝し、これまでの練習の成果を十分に発揮できるよう、全力で試合に臨みたいと思います。また、この経験を通して学んだことを部員たちにしっかりと伝え、今後の部活動に生かしていけるよう、一局一局を大切に、落ち着いて取り組みたいと考えています。

